

西夏文字に見られる 「障害」および「情報伝達」の 認識機序

末森 明夫

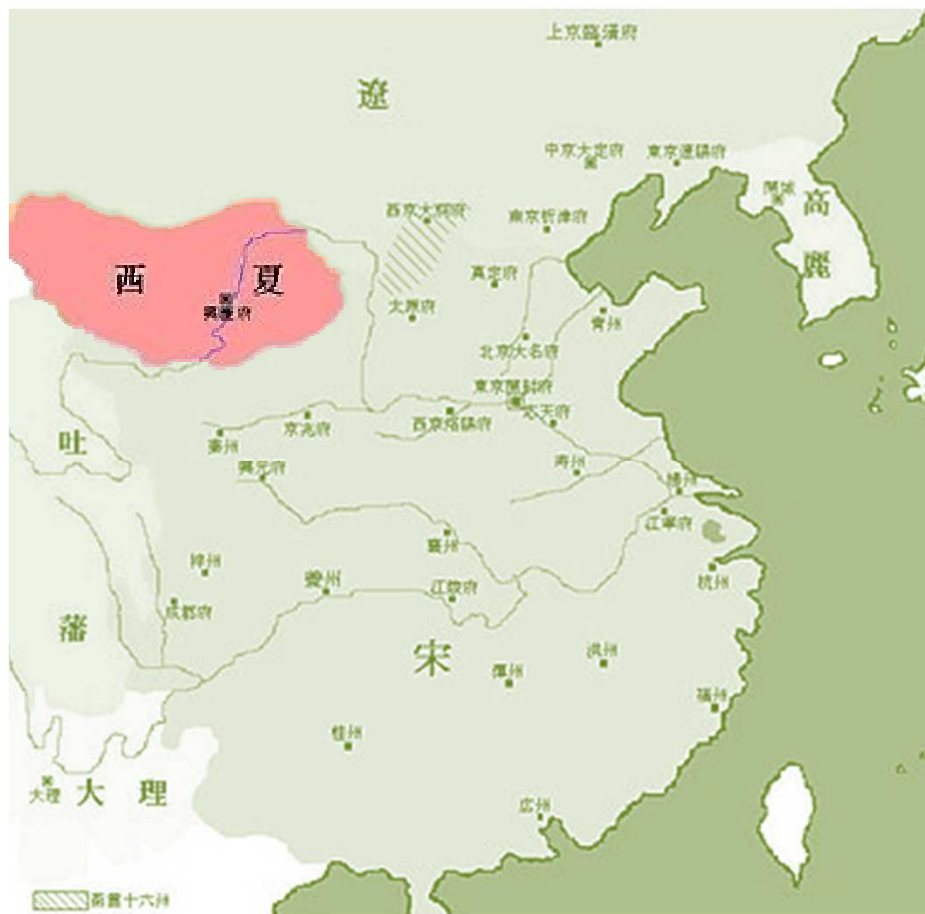
認識機序

「障害」および「情報伝達」の

西夏文字に見られる

西夏王国

2



1032年～1227年

中国西北部

(甘肃省・宁夏回族自治区)

タングート族



1067年
西夏王国初代皇帝が公布

約**6000**字
擬漢字様 表語(表意)文字

西夏王国滅亡(1227年)の後も
16世紀初期まで使用

1970年代にほぼ解読

障害概念編制史における類型論

4



漢字文化圏（漢字・西夏文字、字喃など）における
障害概念編制史の考察

**欧米文化圏における
障害概念編制史との比較**



「瞽」「盲」



「見る」を含意する
構成素



「否定」を含意する
構成素



「見る」を含意する
構成素

と

「否定」を含意する
構成素



「耳」

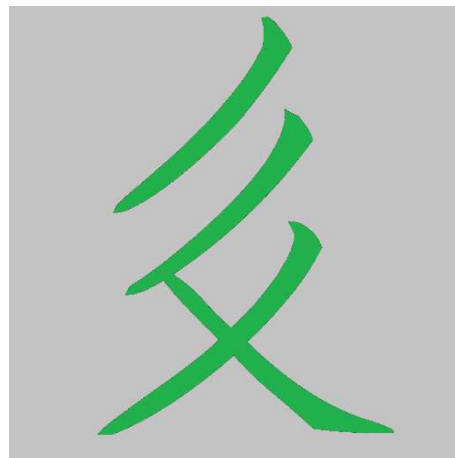


「聵」

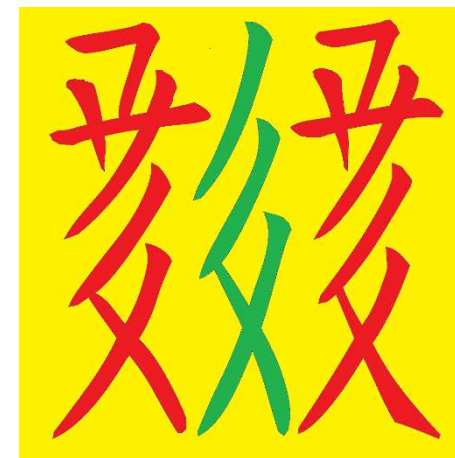
「耳」を含意する構成素の一部と
「否定」を含意する構成素



「皮」



「人」



「聾」

「皮」で「人」を被う

譬喩的創字？



「語」「詞」

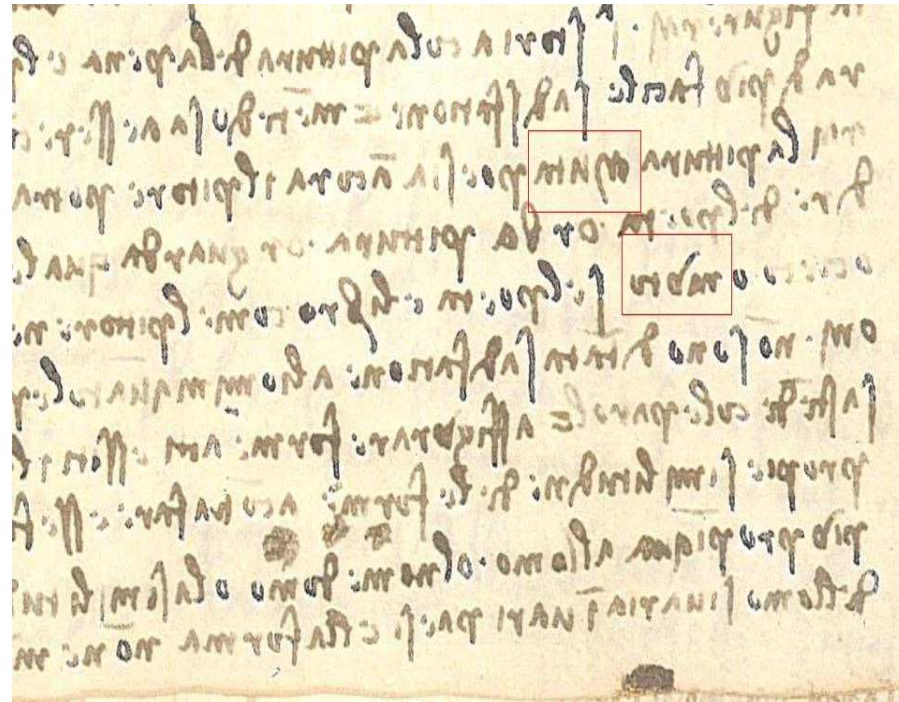
「**言**う」を含意する
構成素



「語」「議論」

「手」を含意する
構成素

Leonardo da Vinci 『絵画の書』



近代初期欧州における universal language の模索



漢訳仏典『中阿含經』（隋時代前？）

而聾啞如羊鳴。常以手語。不能知說善惡之義。

王君玉『雜纂』（宋時代）

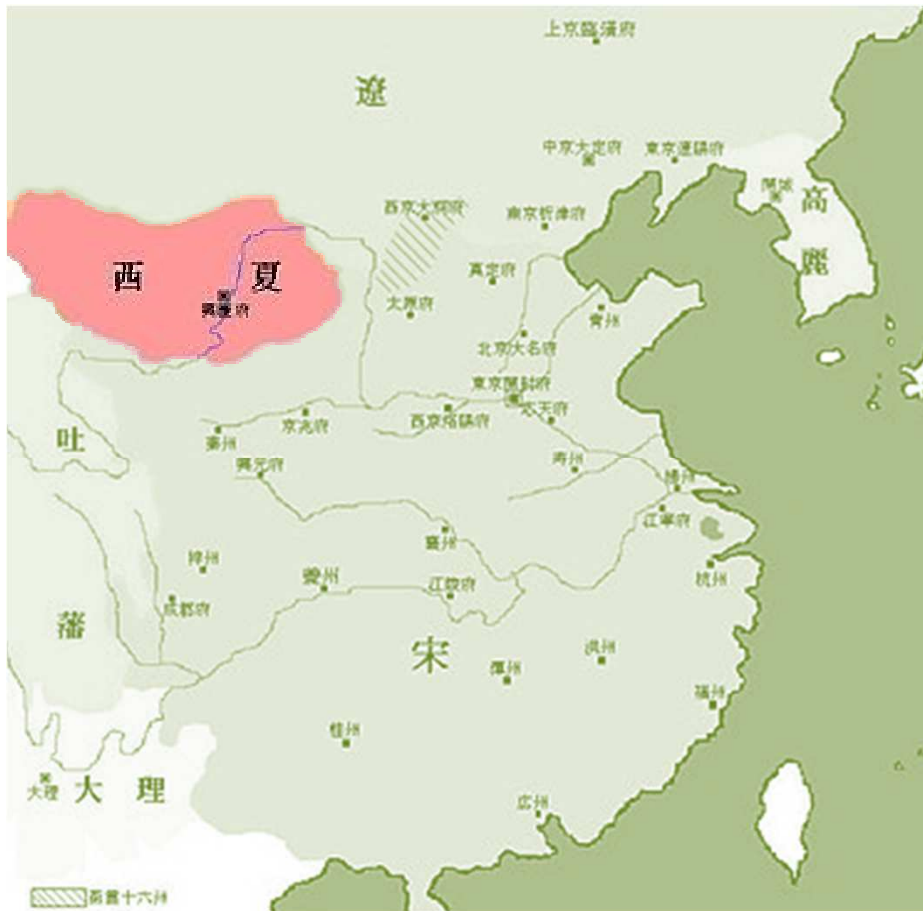
難_レ理會_シ啞子_レ做_レ一_一ヲ

朝鮮通信使との筆談



宮崎滔天と孫文の筆談





宋を始めとする
周辺諸国の人との
筆談の可能性

表音文字主体の欧米と
漢字文化圏における
情報伝達概念の相違の
可能性

現在の聴覚障害者の
筆談に対する見解の
相違の可能性